

身元調査って必要なの？

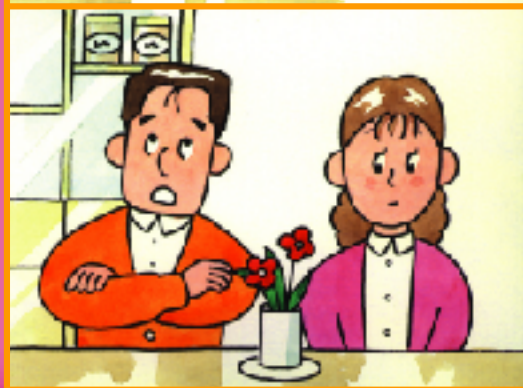
ある日曜日、誰かが調べています。



「ねえ、今ね、〇〇さんのこと、
誰かききにきたのよ」



「ほら〇〇〇ちゃんだよ、
もうすぐ学校も卒業だから、
きっと家族とか近所の評判
とか調査にきたのよ」



「ええ、だからうまく答えとい
たわ」

「ひかし、どんなによく答え
てもらったとしても
自分のことを調べられる
のっていやだな」



わたしたちは考えます

就職や結婚の際に、出身地や家族の状況等をひそかに興信所などを使って調査する例が後を絶ちません。本人の知らないところで行われる、こうした身元調査は、重大な人権侵害です。

採用は、本人の能力と適性によって決められるものであり、それらと関係ない、本人にはどうすることもできない「生まれ」や「親の職業」、「家庭環境」などにより、採用の可否が決定されるとしたら、こんな不合理なことはありません。

しかし、今日でも、身元調査によって出身や家族状況を調べ、それを理由として不採用にするという差別が起きているのです。そうした差別は、差別を受けたことのない人にはその痛みを想像もできないほどに、人を生涯にわたって傷つけてしまうのです。

このような調査は、依頼する側や調査する会社の問題があるのはもちろんですが、人のプライバシーにかかわることを何も疑問を持たずに教えてしまうということにも、問題があります。

調査されているその人にとって有利な情報や良いことだけを教えるのであれば問題がないと考えている人もいるかもしれません。しかし、調査に協力していくことは、調査を許していくことに変わりはないのです。

同和問題をはじめ、差別に深くかかわりのある身元調査は、「しない・頼まない」、調査に来たときは、はっきり「断る」ことが大切です。